

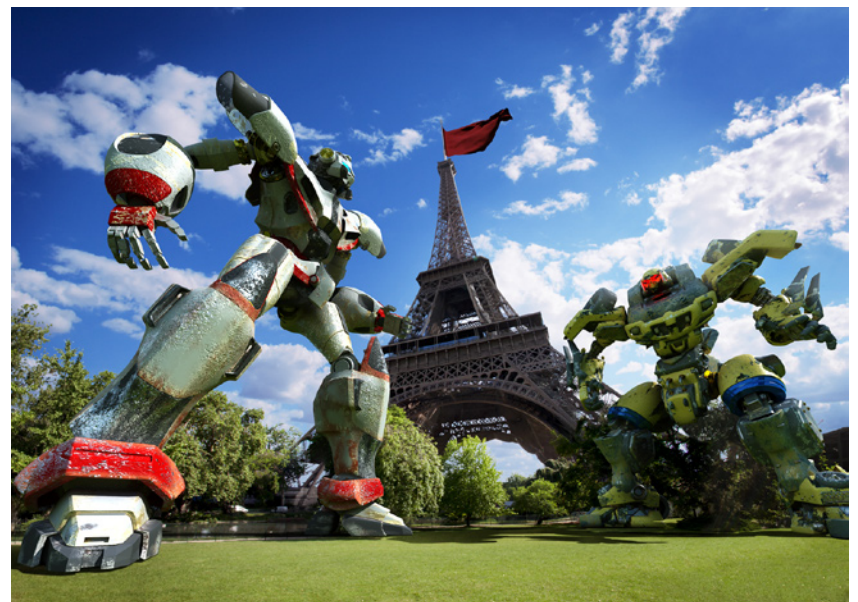
株式会社ヴォンズ・ピクチャーズ 様

広告写真制作に、厳密な色再現ができるColorEdgeを採用し、2Dと3DCGデータを共有する効率的なグループワークを実現。

広告写真制作を行うヴォンズ・ピクチャーズでは、長年EIZOのモニターを利用している。「道具というか、仕事のパートナーですね」と語る代表の片岡氏は、2Dと3DCGの両方でColorEdgeを採用し、色再現精度の高い環境でのグループワークを徹底している。「良い物づくりをするには、良い機材が不可欠です」。そう言い切る業界屈指のクリエイター集団が、効率的な制作を行う方法から、今後の制作現場に求められる課題まで話してくれた。

色が確実に合うColorEdgeだから、3DCG制作にも採用

広告写真制作を行うクリエイター集団、ヴォンズ・ピクチャーズ。彼らが手掛けるのは、大手企業の製品やタレントを起用した広告が多く、高い表現力には定評がある。高度な技術と感性が求められる業界で、トップ集団として活躍し、毎年開催される業界最先端の機材や技術を伝えるイベントでは、3DCGの制作テクニックを解説するなど、現場で求められる情報を積極的に発信している。そんなヴォンズ・ピクチャーズでは、13年前の創業当初からEIZOのモニターを利用してきた。ColorEdgeが発売されてからは、2D、3DCGチームの全員がColorEdgeを使用し、またクライアントが画像の仕上がりを確認する個室（立ち会いルーム）にも設置している。EIZOのモニターを使い続ける理由として、「長年広告を作っていて、ColorEdgeなら色が正確に出ると分かっていますから」と語る片岡氏。特に3DCG制作では、質感や色を正確に再現することが重要で、ColorEdgeを採用するのは



「Adobe® デジタルフォト&デザインセミナー2010」 ロボットを3DCGで制作し、Photoshop® で合成

自然な流れだったそうだ。色管理に関して絶対的な信頼を寄せる機材だと、片岡氏は繰り返す。

2Dチーム、3DCGチームで業務分担 ColorEdgeならグループワークも円滑

3DCG制作は3DCGソフトだけで完結させるのではなく、ある段階まで作業を進めたら、2Dレタッチで仕上げをしていく。そうすることで、より繊細な作業、より効率的な仕事の進行が可能になる。ヴォンズ・ピクチャーズでは2Dチームと3DCGチームでグループワークを行うため、Adobe®Photoshop®とAutodesk®3ds Max®のデータをスムーズに共有することが求められる。「ColorEdgeなら、双方の色が確実に合います。3DCGを制作後も、

2Dチームにデータを渡せば色調整の必要はなく、業務をそのまま引き継ぎます」(新谷氏)。「3DCG制作では『今回の仕事では3DCGはここまで、ここからはレタッチ』とあらかじめ決めてから取り掛かると効率的です。最近では、最も速く修正できる方法(最適なツール)などが分かってきました」(大槻氏)。



「車」3DCGで制作



「コマースフォト誌」 人物は撮影、トランプは3DCGで制作

こだわりの機材として、ColorEdgeを使い続ける理由

「機材には相当のこだわりがあります。道具というか、パートナーですね。毎日見る物で、どんな仕事でも使いますから」と片岡氏は語る。広告写真制作では、入稿データと印刷の色が一致することが求められる。そのため2Dでも3DCGでもカラーマネージメントは必須で、指定したカラープロファイルに忠実であることが重要だ。「業務量が多ければ多いほど、カラーマネージメントが正確にできることで作業効率が上がります。多少高価でも、ColorEdgeは色を正確に再現してくれるので、必要投資だと思っています。良い物づくりには良い機材が不可欠ですから」（片岡氏）。「持ちが良いのも、ColorEdgeの特性ですね。定期的にキャリブレーションを行って、大切にメンテナンスしていますので、正確な画面表示を保っています」（大槻氏）。このように色再現性能や色管理の精度に高い評価をいただいたが、その他、3DCG制作においてモニターに求めるポイントも伺った。「画面は大きい方が使いやすいです。3DCGソフトでは『4面ビュー』といって、

被写体を4方向の画面から確認しながら制作しますので、作業スペースが広い方が効率が上がります」（新谷氏）。

関係者全員がColorEdgeを使えば、最も効率的で、より良い制作現場となる

全員がColorEdgeを使っている理由として「モニターは制作者全員で共通していないと、意味が無いですからね」と片岡氏と言う。「では、お客様や協力会社の方にもColorEdgeを持ってほしいですか」と聞くと、「理想的ですね。色を正確に出せる機材を関係者全員が使えば、修正や確認に掛かる時間はぐんと減り、本来のクリエイティブな作業に掛けられる時間が増えます。お客様にとってもメリットは大きいと思います」と話された。



写真右から：片岡氏（代表・CGディレクター）、新谷氏（CGディレクター）、大槻氏（CGデザイナー）

今後、制作業務に求められる課題 カラーマネージメントの重要性

最後に片岡氏は、今後の制作業務に求められる課題として、色管理の重要性について話してくれた。「ここ数年で、デジタル入稿を行う機会が増えてきました。これからは、実作業をしているデザイナーやカメラマン、レタッチャーなどの一人一人に色管理の責任が出てくると思うんです。それに伴い、各人が使うモニター、プリンタ、スキャナなどの色を一致させるカラーマネージメントは、今後ますます重要になっていくと実感しています。カラーマネージメントを正しく行うためには、色を正確に再現するモニターが不可欠である。クリエイターが「毎日見る物で、どんな仕事でも使う」ColorEdgeは、今後もクリエイターの良きパートナーで在り続けるだろう。

株式会社ヴォンズ・ピクチャーズ 代表 片岡竜一氏

1997年、フォトプロダクションを経て、ヴォンズ・ピクチャーズを設立。広告写真の撮影から画像処理、Webサイトの総合的な企画／制作、3DCGまで、数々の広告ビジュアルを手がける。また、2Dレタッチのテクニックを雑誌で連載し、「Adobe®Photoshop®で実践するフォトレタッチ講座」（玄光社）として書籍化された。このほか、イベントでの講演多数。

株式会社ヴォンズ・ピクチャーズ
http://www.vons.co.jp

導入製品 ColorEdge®

製品に関する情報についてはEIZO Webサイトで

<http://www.eizo.co.jp>

■製品に関するお問い合わせは 受付時間 月～金 9:30～17:30(祝日 弊社休業日を除く)

EIZOコンタクトセンター  0120-956-812